

採血を受けられる患者さまへ

東京大学医学部附属病院 検査部採血室

「採血について」－ 血液検査に必要な手技

「採血」は、病気の診断、病状の把握を行うために必須な医療行為です。

体の中を流れている血液を検査のために採取します。

採血は基本的には安全性の高い手技ですが、まれに合併症（併発症）が起きることがあります。採血によって得られる診療のための情報が、採血を行う危険性より重要であると担当医が判断した場合に採血をお勧めしております。

このような「採血」の必要性・危険性をご了解の上、採血をお受けいただきますようお願い申し上げます。

採血に伴う合併症に関しては本説明書「採血に伴う合併症について」（裏面）、または検査部採血室前の掲示をお読みください。



「検査部採血室」にて採血を受けられる外来患者さまへのお願い

検査部では採血を「安全に」「間違いなく」行うため、次のことを確認させていただいております。

ご本人確認:

「採血取り間違い防止」のため、ご自身の姓名を名のっていただいております。

下記に該当する患者さまは、 採血スタッフにお申し出ください:

- ◎ 採血時にご気分の悪くなられる方
- ◎ 消毒薬（アルコール）や手袋（ラテックスなど）にアレルギーをお持ちの方
- ◎ 血液透析中の方

- ◎ 乳房切除手術を受けられた方
- ◎ その他採血に関して、ご希望、ご不安な点のある方

円滑な採血の施行には、患者さまのご協力も必要となりますことを何卒ご理解ください。

もしご不明な点、ご不安な点がございましたらご遠慮なくスタッフにお申し出ください。

なお検査部採血室では、国家資格を有する「臨床検査技師」と「看護師」が採血を担当しております。

採血に伴う合併症について

「採血」は、基本的には安全な手技であり、合併症の頻度は極めて少なく、また軽症なものが多いとされております。

しかしごくまれに、次のような健康被害を生じるとの報告があります。



止血困難・皮下血腫:

穿刺後の不十分な止血操作などが主な原因です。十分な圧迫止血をしていただきますようお願いいたします。

アレルギー:

採血時の消毒薬やスタッフの手袋（ラテックス）などでかゆみ、発疹を初めとするアレルギー症状が出現することがあります。

神経損傷:

採血後に手指へ拡がる痛み、しびれなどが生じ、一定時間が経過した後も持続します。約1万～10万回の採血に1回の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経は個人差が大きいため、神経損傷を100%防止することはできませんが、通常の採血では、太い神経の断裂などの可能性は低く、損傷は軽度で症状は軽く一時的な場合がほとんどです。

血管迷走神経反応:

心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされ、採血前に起こることもあります。神経が興奮し、急激に血圧が下がるため、めまい、気分不快感、意識消失などをひきおこします。報告によりさまざまですが、0.01%～1%の頻度で起こるとされています。

これらの合併症が起きた場合には最善の処置を行います。（なお、その際の医療は通常の保険診療となります。）

疑問点などは・・・

診療内容に関してご不明な点（結果判断や検査項目など）は、担当医にご相談ください。

検査項目の基準値表を検査部採血室にご用意しております。ご利用下さい。